

研修等 報告書

令和5年7月20日

三田市議会議長 松岡 信生 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代表者
		議員名
		肥後 淳三
参加者氏名	肥後 淳三	
講演会等研修名	全国地方議会サミット2023 in 早稲田	
研修事項	Day1 7月5日(水) 13:00-18:00	
▼基調講演	「激変する時代に対応する議会を実装せよ」 北川正恭 早稲田大学名誉教授、元三重県知事	
▼特別講演	「デジタルで変わる社会 地方と議会への期待」 河野 太郎 デジタル大臣 (急遽動画出演に変更)	
▼セッション デジタルで変わる 自治体・政策	「マイナンバーカード交付率9割超え 都城市のデジタル戦略」 佐藤 泰格 都城市総合政策部デジタル統括課 「ChatGPT 自治体活用実証 横須賀市のデジタル戦略」 寒川 孝之 横須賀市デジタル・ガバメント推進室 「全国初 県内全77市町村との協働電子図書館「デジとしよ信州」」 森 いづみ 県立長野図書館長 「デジタル図書館とアクセシブルライブラリー」 林 剛史 株式会社メディアドゥ 電子図書館推進センター	
▼セッション オンラインと デジタルを活かす	「議会デジタル化の必要性 ChatGPT などの生成系 AI とどう向き合うか」 河村 和徳 東北大学大学院准教授 都道府県議会デジタル化専門委員会座長 「デジタル・オンライン活用最前線 AI 活用による議会の視覚化と市民参画」 金澤 克仁 取手市議会議長 「デジタルで変わる市民と議会 まちだん宮崎市議会 DX 実証実験より」 財前 貴玄 Gcom ホールディングス まちだん担当	
▼セッション デジタルが拓く あたらしい民主主義	「Society5.0時代のあたらしい民主主義」 中村 健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長 「つくば市が取り組む選挙DX インターネット投票実証実験より」 五十嵐 立青 つくば市長 「選挙後(無投票選挙)も選挙公報を有権者へ届ける取組」 山本 直也 芽室町選挙管理委員会事務局書記長 「～新しいスタイルの選挙運動を全国に!～「選挙チェンジチャレンジの会」の取組」 川久保 皆実 つくば市議会議員	
▼鼎談	Day2 7月6日(木) 10:00-16:00 「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」 北川 正恭 早稲田大学名誉教授 元三重県知事 片山 善博 大正大学教授 元総務大臣 廣瀬 克哉 法政大学総長	

<p>▼セッション 政策議会の一般質問</p> <p>▼セッション 自治体監査と議選 監査委員を活かす</p> <p>▼セッション 政策につよい 議会をつくる</p>	<p>「一般質問を議会の政策資源にするシクミ」 土山 希美枝 法政大学教授 西原 浩 別海町議会議員 青野 敏 鷹栖町議会議員 片山 兵衛 鷹栖町議会議員</p> <p>「政策サイクルと政策財務」 江藤 俊昭 大正大学教授</p> <p>「監査委員事務局との連携 自治体監査・議選監査の活かし方」 谷川宏 鎌倉市監査委員事務局長 前議会事務局議事調査課長</p> <p>「議選監査委員を活かす」 子籠 敏人 あきる野市議会議員 議選監査委員</p> <p>「議選監査委員の活かし方 行政のかかりつけ医」 川上 文浩 可児市議会議員 議選監査委員</p> <p>「政策決議提案とガイドライン」 菅原 由和 奥州市議会議員</p> <p>「大学連携とミッションロードマップによる政策立案」 清水 克士 前大津市議会局長、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員</p> <p>「議会における政策づくりと政策法務」</p>
<p>日 時</p>	<p>令和5年7月5日（水曜日）～ 7月6日（木曜日）</p>
<p>場 所</p>	<p>早稲田大学大隈記念講堂</p>
<p>所 見</p>	<p>所見は別添参照</p>
<p>添付資料</p>	<p>当日の配布資料は、美藤議員報告書の添付資料を参照</p>

別添 全国地方議会サミット2023 in 早稲田

(所見)

*は所見部分

Day1 7月5日(水) 13:00-18:00

「激変する時代に対応する議会を実装せよ」

北川正恭 早稲田大学名誉教授、元三重県知事

(特別講演)

「デジタルで変わる社会 地方と議会への期待」

河野 太郎 デジタル大臣 (急遽動画出演に変更)

*マイナンバーでは、随分国民の皆様にご迷惑をお掛けしている。マイナンバーを進めることで行政サービスや医療の高度化が進むと信じている。デジタル化については、国家として進めて行かなければならない懸案事項であり、皆様のご理解をお願いしたい。

(セッション:デジタルで変わる自治体・政策)

「マイナンバーカード交付率9割超え 都城市のデジタル戦略」

佐藤 泰格 都城市総合政策部デジタル統括課

「ChatGPT 自治体活用実証 横須賀市のデジタル戦略」

寒川 孝之 横須賀市デジタル・ガバメント推進室

「全国初 県内全77市町村との協働電子図書館「デジとしよ信州」」

森 いつみ 県立長野図書館長

*読書の barrier-free どこに居ても拡大したり音源で聴ける・一度に見られる

「デジタル図書館とアクセシブルライブラリー」。災害時でもコロナ禍でもデジタル図書館が活動。予算は、宝くじ助成金を活用し利用がさらに拡大した。

林 剛史 株式会社メディアドゥ 電子図書館推進センター

(セッション:オンラインとデジタルを活かす)

「議会デジタル化の必要性 ChatGPT などの生成系 AI とどう向き合うか」

河村 和徳 東北大学大学院准教授 都道府県議会デジタル化専門委員会座長

「デジタル・オンライン活用最前線 AI 活用による議会の視覚化と市民参画」

金澤 克仁 取手市議会議長

「デジタルで変わる市民と議会 まちだん宮崎市議会 DX 実証実験より」

財前 貴玄 Gcom ホールディングス まちだん担当

*コロナが落ち着き、オンライン会議などが下火となってきているが、病気、出産、怪我など病院や自宅から委員会や本会議にオンラインで参加することは、議会として取り組むべきではないか。

また、議員のなり手不足と言われているが、他の仕事を持っている議員にとっては、ありがたい仕組みではないか。

なお、議会報告会にもオンラインで参加することが、市民参加を促し、議会への感心を高める一助となると考えている。

(セッション:デジタルが拓く新しい民主主義)

「Society5.0時代のあたらしい民主主義」

中村 健 早稲田大学マニフェスト研究所事務局長

「つくば市が取り組む選挙 DX インターネット投票実証実験より」

五十嵐 立青 つくば市長

「選挙後(無投票選挙)も選挙公報を有権者へ届ける取組」

山本 直也 芽室町選挙管理委員会事務局書記長

「～新しいスタイルの選挙運動を全国に！～「選挙チェンジチャレンジの会」の取組」

川久保 皆実 つくば市議会議員

*つくば市では、インターネット投票の実証実験に取り組んだ。インターネット投票は、若い有権者のためにと言われているが、入院中、高齢で外出できない方が投票できるシステムである。

高校の生徒会役員を決める際にもあつという間に集計が出来た。ネット投票を拒むのは、現在の公職選挙法であり、「本人が投票所に行き記名で投票する」とされており、実にアナログである。本人認証や他者が投票できない仕組み、あるいは秘匿性を確立しており、国だけではなく地方から変えなければならない。この仕組みを地方に貸し出すことができるので、高校生役員の選出から利用してもらえればよい。

*東京圏からつくば市へ選挙の3カ月前に転居し、保育園での制度が随分違うことに疑問を感じて出馬した。①仕事は続ける ②子育てする ③従来の選挙はしない

の3つの柱で、ごみ拾いから始め、選挙カーも出さずに SNS だけの発信をした。結果は3位で当選。現在、同じ思いの方を募集している。

Day2 7月6日(木) 10:00-16:00

「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」

北川 正恭 早稲田大学名誉教授 元三重県知事

片山 善博 大正大学教授 元総務大臣

廣瀬 克哉 法政大学総長

(セッション:政策議会の一般質問)

「一般質問を議会の政策資源にするシクミ」

土山 希美枝 法政大学教授

西原 浩 別海町議会議長

青野 敏 鷹栖町議会議員

片山 兵衛 鷹栖町議会議員

*一般質問項目を当局に質問する前に議員間で共有し議論することになっている。このことにより、質問内容が磨かれ質の高い質問となっている。当初は、一般質問は議員個人の力量であり、「個人のもの」との意見も聞かれたが、質問は、市民生活を豊かにすることであることを前提に議論し、現在はこの手法で質問をしている。

また、傍聴された市民に一般質問の採点(レーダーチャート)を実施してもらい、この票を公開することで議員の通信簿にもなっている。

これまでと異なる点は、質問の観点や当局からの答弁内容深みが生まれていること。

「政策サイクルと政策財務」

江藤 俊昭 大正大学教授

「監査委員事務局との連携 自治体監査・議選監査の活かし方」

谷川宏 鎌倉市監査委員事務局長 前議会事務局議事調査課長

「議選監査委員を活かす」

子籠 敏人 あきる野市議会議員 議選監査委員

「議選監査委員の活かし方 行政のかかりつけ医」

川上 文浩 可児市議会議員 議選監査委員

「政策決議提案とガイドライン」

菅原 由和 奥州市議会議長

「大学連携とミッションロードマップによる政策立案」

清水 克士 前大津市議会局長、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員

「議会における政策づくりと政策法務」

(全体を通した所見)

- ・全国地方議員サミットオンラインで拝聴し、各セッションで気になった部分は、上記掲載のとおりである。
- ・三田市でも「議会報告会」、「未来トーク」や「市政相談会」などをこれまで開催してきたが、これが市民に十分浸透し、かつ参加してみたいと思っているのかの点で、疑問が残る。

新型コロナウイルス感染拡大に端を発して、議会と市民参加のオンライン報告会などを手掛ける議会も現れており、今後三田市議会でも検討していく余地があると感じた。

さらに議員の怪我、子育てなど、どうしても家に居なければならない事情などの際にオンラインの委員会などで出席扱いとすることができれば、議員のなり手不足の解消等にもつながるのではないかと感じた。

また、2日目の最終セッションで清水克士 前大津市議会局長より大学との連携について2点ほど報告があった。

一つは、大津市議会では、龍谷大学、立命館大学、同志社大学とそれぞれパートナーシップ協定を締結しており、議会から出される政策の助言、議員研修講師派遣、インターンシップの受け入れを実施しているとのことであった。

また、大学図書館との連携についても報告があり、政令指定都市並みの議会であったとしても議会図書館を持つことは現実的ではないことから、大津市議会では龍谷大学内3か所との図書館と連携(全国初)しており、大学図書館の司書も学生と同様、議員や大津議会事務局からの調査などに応じてくれることになっている。

何故、公の図書館ではなく外部(大学)図書館との連携なのかについては、公の図書館を使うことは調査事項の秘匿性の意味からも好ましくない。との視点であった。

なお、大学との連携で目指すものは、議会の政策立案機能向上であることは言うまでもない。

上記の三田市議会と大学(関学等)との連携についてであるが、三田市と関西学院大学との連携協定は聞いているが、市議会との協定は締結されていない。

今後、市議会としても図書館機能の連携について検討の余地はあると考える。

(肥後 淳三)